

市街地区で春の道路一斉清掃
冬の汚れを一掃しました

4月27日に津別町自治会連合会による春の道路一斉清掃が行われました。(一部自治会は25日と26日に実施) この日は北海道クリーン作戦「ポイ捨てゼロの日」でもあり、冬の間に住宅周辺の道路にたまった土砂などを朝早くからホウキやスコップなどを使って取り除いていました。
3年目を迎える今年は、各自治会単位で昨年を上回る1200人の協力をいただき、集まった土砂は合計で14トン、ゴミは1.2トンとなりました。清掃に参加した方からは「経費も削減できるし、地域の人たちの顔が見れて連帯感も生まれる」との話がありました。

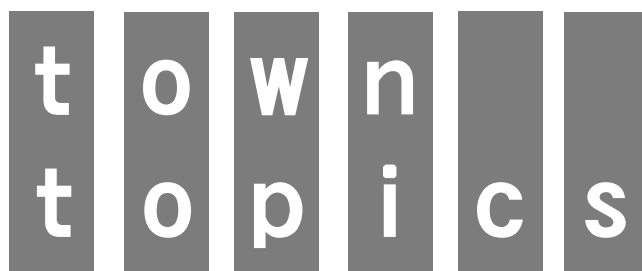


地域の協力により見違えるようにきれいになりました

パークゴルフのシーズン到来
久しぶりの芝の感触を味わう



穏やかな天候にも恵まれた4月29日、今年のシーズンがスタートしました。早朝から若いグループやお年寄りまで様々な年代の方がプレーを楽しんでいて、きれいに整えられたコース上からは歓声とボールを打つ快音が聞こえていました。オープン初日は約380人ほどがプレーを楽しんでいましたが、今年もシーズン中は健康維持や交流の場などとして町内外から多くの利用者が見込まれ、すでに各種の団体による大会も予定されています。



まちのわだい

廃食用油などを回収
リサイクルで資源を有効活用

ごみの減量化と有効利用を図るため、各家庭で使用した食用油や再利用(リユース)品などの回収が今年も旧ケイニット跡で始まりました。津別町環境衛生推進協議会と町の担当者が対応する中、古衣料や廃食用油が次々と持ち込まれ、初回の4月は廃食用油が210リットル、古衣料141kg、自転車1台、5月17日は、油が100リットル、古衣料120kgが集まりました。



今年も回収は10月までの毎月第3土曜日に、行われ、持ち込まれた方には廃食用油をリサイクルし、た手作り石鹸が無料で配られます。

町民植樹祭に80人が参加
大きく育つよう願いを込めて

5月11日、津別町と網走南部森林管理署の主催による町民植樹祭が町内事業所や個人など約80人が参加して行われました。今年は北海道洞爺湖サミットが開催され地球温暖化対策が重要なテーマの一つとなっています。植樹によって将来の安定的な木材の確保はもちろん、二酸化炭素を吸収し削減することにより温暖化防止にも役立つとあって、参加者は網走東部森づくりセンター職員から指導を受けながら、用意されたカラマツの苗木400本を丁寧に植えました。



津別小学校で交通安全教室開催



5月8日、津別小学校で交通事故を未然に防ぎ、交通安全意識を高めることを目的に交通安全教室が開催されました。
この日は1・2年生が交差点の横断の練習、3・4年生が自転車の練習、5・6年生も自転車の練習後、校舎を1周した後、に講評をもらいました。
1・2年生の練習の後には、講師の津別駐在所の守山所長から「信号が青でも渡ってもいいわけではありません。右と左を確認してから渡ってください。今日やったことを守って安全に生活しましょう」と子ども達へ交通ルールを守るよう指導していただきました。

町内共和のグレステンスキー場が5月3日に今年の営業を始めました。オープン初日は天候にも恵まれ、自然運動公園周辺では桜が満開の時季を迎え、芝桜も咲き始める中、午前10には一番乗りとなる小清水町から訪れた親子(小学校5年、3年、2年生、幼稚園年長)5人やオープンを待ちわびた利用客が次々と久しぶりの滑りを楽しんでいました。
また、咲きそろった周辺の桜に誘われ散策を楽しんだり、木材工芸館や学習展示館にも足を伸ばす家族連れの姿が多く見られました。



グレステンスキー場オープン
爽やかな風を切って初滑り

ベジタブル240がオープン
新鮮な花や野菜の苗を直売



今年で11年目を迎えた共和のベジタブル240(会員12人)が5月17日にオープンしました。直売所には朝早くからたくさんの方々が集まり、小松菜やほうれん草、チンゲン菜などの取れたて野菜やパンジーやマリーゴールド、きゅうり、ナスなどの花や野菜の苗を買い求め、活気ある声飛び交っていました。代表の藤原弘子さんは「たくさん来ていただいてうれしいです。今年も安心安全な新鮮野菜をそろえて皆さんのご来店をお待ちしています」と話してくれました。ベジタブル240は、毎週火・土曜日の午前7時から午後6時までです。

道路クリーン作戦を実施
大量の生活ごみを回収



5月10日「ごみゼロの日」に合わせて町と津別町環境衛生推進協議会が主催して道路のゴミ拾いが行われました。午前7時30分に集合して、パークゴルフ場から美幌町境界までの町道3号線(広域農道)を数人ずつに分かれて、沿道に捨てられていた空き缶やゴミを拾いました。今回は1560kgものゴミが集められましたが、中にはテレビなどの家電製品や生活ゴミが大量にあり、これらは分別してリサイクルすることができるものも多くあって、参加者からは嘆きの声が上がっていました。